

# 平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年 4月 7日
研究・研修課題名	「認定視能訓練士」「専門視能訓練士」取得のための研修
研究・研修組織名 (所属)	「認定視能訓練士」「専門視能訓練士」取得のための研修 (眼科)
研究・研修責任者名 (所属)	小村哲郎 (眼科)
共同研究・研修実施者名 (所属)	安井愛佳 福田洋貴 (眼科)

## 目的及び方法、成果の内容

### ①目 的

視能訓練士協会では2006年より生涯教育制度が開始され、教育プログラムを終了して所定の条件を満たしたものを「認定視能訓練士」とすることが決定された。2013年より「認定視能訓練士」が誕生するようになった。

今日の高度医療社会において、視能訓練士自身が自己研鑽・自己啓発に努め、多様化する社会的ニーズや医療を取り巻く環境の変化に対応し、社会に貢献できる専門職として学習し続けなければならない。視能訓練士協会は会員の意識を高めて、専門職として国民生活の質的向上に寄与できる知識や技術の向上を図り、個々の視能訓練士が輝きながら生き残っていく力をつけるための生涯教育制度を構築している。生涯教育制度で学び、国民の健康の向上や維持に貢献できる知識と技術を習得し続けている者に対して「認定視能訓練士」の称号を授与し安心できる医療を提供するものである。

教育プログラム受講と、学会発表・参加・研修会で得られる単位を取得することで「認定視能訓練士」が取得できる  
当院の視能訓練士が将来的に「認定視能訓練士」を取得することを目的とする。

基礎教育プログラム修了者を対象とした専門教育プログラムが2017年度から開始されることになった。専門分野でのより高度な知識を習得することを目的とし、「専門視能訓練士」を取得し、より専門的な業務が行える視能訓練士となることを目的とする。

### ②方 法

公益社団法人 視能訓練士協会の定める生涯教育プログラムに組み込まれた以下のプログラムを履修し、所定の単位を取得する。

- ・新人教育プログラム教義日程
- ・専門教育プログラム I
- ・視能訓練士協会の定める学会・研修会参加で単位を取得

#### 新人教育プログラム

2017年7月16、17日 東京 CIVI 研修センター秋葉原  
受講者 安井愛佳

#### 第55回 日本神経眼科学会

2017年11月10、11日 横浜市 パシフィコ横浜  
出席者 福田洋貴

#### 専門教育プログラム I

2017年9月17、18日 大阪市 難波御堂筋ホール  
受講者 小村哲郎

参加者の都合で申請書と異なる研修会場・学会参加とさせていただいたものがあります。

### ③成 果

受講者 安井愛佳

2017年7月16日(日)17日(月)に開催された、視能訓練士協会生涯教育制度の新人教育プログラムの講義日程を受講しました。

新人教育プログラムは、視能訓練士の生涯教育制度で、国民の健康の向上や維持に貢献できる知識と技術を取得し続けている者に対して認定視能訓練士の称号を授与するための最初のプログラムです。

今回新人教育プログラムに参加し、日常の臨床ではなかなか追及しにくい、解剖学や眼光学、薬理学等の講義を通して、改めて基礎の大切さを学びました。臨床経験をした後に聞く講義は、今まで座学がメインだった学生の頃比べ、多くの知見を得ることができました。今回得た知識をこれからの臨床につなげていきたいと思いました。また、臨床の場で疑問に感じることを今回の講義を通して解決することができました。疑問に思うことは基礎に立ち返り、日々勉強していこうとさらに向上心がわくプログラムでした。

また、実際に外来で働くなかで患者さんへの対応で戸惑うことがありますが、医療安全やクレーム対応のリスクマネジメントの講義も聞くことが出来、大変勉強になりました。

普段ではなかなか経験できない、著名な先生方の講義が一度に受けることができ、貴重な機会に参加することができ、充実した2日間でした。さらに、知識を深め、臨床に生かしていきたいと思います。

今後、認定視能訓練士の取得に向け、次のステップである基礎教育プログラムの受講をしたいと思っています。

出席者 福田洋貴

第55回 日本神経眼科学会 2017年11月10(金)～11日(土) パシフィコ横浜

本学会では、神経学的な内容はもちろん、視能訓練士が日常的に多く行う視力検査についての発表もあった。視力検査は通常、片眼を遮蔽して行う。しかし、片眼を遮蔽することで瞳孔が30%散大することである。瞳孔径は視力と深い関係があり、瞳孔が散大すると収差が増し、見え方が悪くなる。斜視や弱視など、多くの小児も来院するが、小児では特に視力測定に時間がかかることがある。片眼を遮蔽した状態が長く続くと瞳孔は散大し、思うように視力が出ないことがあるため、長く時間がかかる場合は遮蔽を一度解除し、散大した瞳孔を元へ戻すと視力が出やすいとのことであった。この方法はすぐにでも取り入れることができるため、より正確な視力を測定できるよう活用していきたい。

また、機械展示では新しい視野計を見ることができた。現在、静的視野計の主流はHFAである。HFAは片眼を遮蔽し、検者が固視を監視しながら行う。測定モードにもよるが、片眼の平均測定時間は7～8分であるため、高齢者では特に疲れやすく、信頼性の低い結果となる場合もある。今回展示されていた視野計“imo(アイモ)”は、ヘッドマウント型の視野計で、HFAに比べ省スペースである。両眼開放で片眼ずつ測定でき、固視も自動トラッキング機能がありより正確に測定が可能。また、HFAと同等の精度でありながら、測定時間は短縮されているとのことである。短時間であり、固視不良によるやり直しも行う可能性が低いことから、高齢の患者に対する負担が少ないと思われる。多くの視野測定を行う臨床において有用な器械であると感じた。

本学会へ参加することで、様々な新知見を得ることができた。また、今後の臨床業務におけるの活力を得る良い機会となった。

受講者 小村哲郎

視能訓練士協会生涯教育制度 専門教育プログラムI 受講

2017年9月17、18日 大阪 難波御堂筋ホール

2017年度より、新人・基礎教育プログラム修了者を対象に、専門教育プログラムも追加され、さらなる視能訓練士のレベルアップがもたらされている。今回、第1回目の専門教育プログラムを受講し、学ばせていただいた。内容は、臨床心理・視覚生理学・視覚情報処理・心理物理学・医学論文の作成・医療統計学の6分野、9講義を受けた(カリキュラム添付)。医学論文の作成・医療統計学はこれまでの教育プログラムにないカリキュラムで、特に統計学では分かりやすい講義であり、興味を持って理解することができた。全講義出席と各講義終了後の試験を合格し、専門教育プログラムI修了した。(終了証添付)

視能訓練士協会では2006年より生涯教育制度が開始され、新人教育プログラム・基礎教育プログラムを修了し、学会発表・学会参加により一定の単位を取得したものに「認定視能訓練士」の資格が与えられ

ることになった。今回の研修で得た単位を含めて申請基準を満たすことができ、2018年3月に「認定視能訓練士」認定登録を完了した。

更なる検査業務の細分化、専門化が求められてくると想像されるため、今後も「専門教育プログラム」を受講し最新の知識や技術を得て、業務に生かしていきたい。

<p>* 公益社団法人 日本視能訓練士協会 認定視能訓練士 受領【2018年4月1日】</p>
---